

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100400		
法人名	有限会社 シルバーケア 夢		
事業所名	グループホーム サンサン丸		
所在地	沖縄県那覇市首里末吉町3丁目60番地1		
自己評価作成日	平成28年11月20日	評価結果市町村受理日	平成29年 2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani:TRUE&JiyosyoCd=4790100400-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護リサーチおきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2-4-3		
訪問調査日	平成28年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○口腔ケアを会食後行っている。口腔内の清潔を保持するとともに嚥下の状態や食事の形状を検討し、ご家族や 歯科医師と連携してケアを行うことができる。</p> <p>○食事を利用者様の状態に合わせて提供することができる。味覚、臭覚、聴覚など五感を刺激して、食欲をそらせる事ができる。また、栄養状態を把握し、高たんぱくゼリーやエンシュア等の補助食品等をご家族、主治と連携して身体向上の維持を図ることができる。</p> <p>○好きな時に入浴することができる。</p> <p>○外出の機会が多い。外出することで身体機能をたかめ、気分をリフレッシュし、昼夜逆転を防ぐことができ、夜間良眠に繋がる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、開設当初に全員で作った理念のもと、食べることは生きることにつながることをモットーに、専任の調理職員が配置され、リビングに漂う食事の匂いや音を大切に、食事アンケート結果を踏まえた献立、食事作りに利用者も参加する等、グループホームのあるべき姿そのものが随所に伺える。管理者は日々の支援の中で、利用者が望む生活を支援するとともに、昼は活動を中心とし、夜はしっかり睡眠が取れる生活リズムを目指し、昼食後は散歩を日課としている。利用者も日々の流れが体に馴染んでいるようで、調査時も昼食後は出かける準備を行い、職員と一緒に外出していた。事業所の特徴として、役所への申請や各種手続き等には、利用者全員と一緒に役所へ出向き、屋内を見学する等して懐かしめの場の回想の機会としている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 1月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念づくりを行っている。	理念の共有と実践については、日々の全体的な生活よりも、「外出したい、眠りたい」等、利用者個々が望む生活を基に支援している。管理者は、食事の匂いや音を大切に、アンケートによる献立や食事作りに利用者も参加する等、グループホームのあるべき姿そのものが随所に伺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域推進運営委員会や保育園との交流。	事業所と地域とのつきあいについては、地域の敬老会に参加したり、老人福祉センターや保育園等に利用者と一緒に出かけている。事業所の行事等に美容学校の学生や保育園児、民生委員等が参加したり、毎日の散歩等で地域住民や保育園児と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	那覇市協同大使に参加し、健康福祉部に所属している。広報活動や啓蒙活動を行うとともにひやみかちウォーキング大会へ利用者様とボランティアで参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の委員に方々の意見や情報を取り入れ、地域のお祭りに参加したり、情報をいただいたりしている。	運営推進会議を活かした取り組みについては、会議は2か月に1回定期的に開催され、利用者、家族、民生委員や保育園々長、行政職員等が参加している。委員には委嘱状が交付され、会議では利用者状況や外部評価結果、事故等が報告され、意見交換がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	那覇市のグループホーム連絡会に参加し、ケアの実情や困っている事等を話し合い連携している。	市町村との連携については、運営推進会議での情報交換のほか、福祉や介護関連課窓口月に2、3回出向き連携を図っている。役所で申請等の手続きの際は、利用者の外出等も兼ね全員で出かけ、屋内を見学する等して回想法に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会や勉強会の参加や開催等。	身体拘束をしないケアの実践については、法人や事業所等で研修し職員は周知している。安全ベルトを使用していた利用者の検討会議後、家族にリスクを説明し、8月以降は拘束をしないケアを実践している。調査当日、利用者が玄関から出る行為への対応は、拘束のない支援に取り組んでいる姿そのものであった。	

沖縄県(グループホーム サンサン丸)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修や勉強会の参加及び開催等		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修や勉強会の参加及び開催等		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、ご家族が納得いくまで、話し合いを行う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様に食事のアンケートを行い、利用者様のニーズに応えている。	運営に関する利用者、家族等意見の反映については、担当職員が年1、2回センター方式を用いて利用者等の要望を聞き取り記録し支援している。具体的には、利用者の「外出したい」や家族から「きちんとした服で外出させてほしい」等の要望に対応し支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の家kkを反映させる仕組みを作っている。互助会の行事、職員の誕生会等の飲みものにケーションで話しやすい環境づくりや意見の吸い上げを行い働きやすい環境づくりに努めている。	運営に関する職員意見の反映については、毎月業務ミーティングが開催され、職員から業務に関する意見を聞く機会としている。職員から掃除時間の見直しや書類の収納・片付け等の意見を受け改善しており、運営に反映する仕組みを構築している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	産休や育児休暇の導入の検討		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の研修委員の選任や勉強会の開催等		

沖縄県(グループホーム サンサン丸)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県GH連絡協議会への参加により、職員間の交流を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをしっかりと行い、ニーズの掘り起こし等、時間をかけて本人様の話をしっかりと聴く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントをしっかりと行い、ニーズの掘り起こし等、時間をかけてご家族様の話をしっかりと聴く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問診療や医療機関との連携、薬剤師等との連携を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アセスメントやケアプランの作成し、ケース会議等で検討している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	カンファレンスを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望により、こちらへ足を運んでいただけのような支援や行事への参加の促し、外出支援を行ったりしてご家族との関係性がと切れないような関係づくりに努めている。	馴染みの人や場との関係継続の支援については、各々の地域との繋がりを目的に、首里出身の利用者の場合は、首里祭りへの外出を支援している。さらに、管理者は利用者家族との関係を大切に考え、正月やお盆は自宅で過ごせるよう職員が送迎し、外出や外泊を支援している。	

沖縄県(グループホーム サンサン丸)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出時に利用者がお互いをかばい、車椅子を押してくれる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時支援を行い、地域につないでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	きめ細かいアセスメントを実施している。	思いや意向の把握については、担当者が毎年定期的に、利用者の思いを本人や家族等に聞き取り、センター方式の「今の私の姿です」に記載し把握している。毎年の記録から、利用者の意向の変化や今の状態を確認し支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	きめ細かいアセスメントを実施し、利用者様の馴染みの持ち物(畳、鏡台、テレビ等)の持ち込みを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル表、体重表、排泄チェック表、支援経過表等の記入することで、日々の体調を管理している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員はもとより、医師、看護師、訪問看護師、ご家族やデイケアと連携を行っている。	チームでつくる介護計画とモニタリングについては、「一人で風呂に入りたい」等の介護計画や利用者状況が記録され、把握できるカードックス(申し送りファイル)を活用し共有を図っている。計画作成担当者が毎月モニタリングし、介護計画は年1回作成されている。リスクの高い利用者の場合、随時に計画の見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務ミーティングやケース会議等で検討している		

沖縄県(グループホーム サンサン丸)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出支援やお正月、旧盆の帰省の支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	那覇市協同大使のボランティアに利用者様が参加。自治会の祭りへの参加		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の病院受診へ時々同行して報告している。また受診時に日々の体調および健康管理・服薬に関して主治医に書面や口頭で報告して連携を図っている。	かかりつけ医を受診している利用者は、家族対応だが、職員が同行する場合もある。受診時は、計画作成担当者が記載した書面を持参し情報提供している。受診後は医師から書面で情報を得て、職員で共有している。訪問診療の利用者には、インターネットで医師、看護師、職員が連携して健康管理が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約し日常的な健康管理を連携しながら行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にカンファレンスをお願いし、医療連携を図っている。急変時には同行し状態や状況の報告を行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書の中に重度化した終末期に向けた指針を明記し、利用者様及びご家族に同意を得ている。医師や医療関係者を含めたカンファレンスを行い、終末期に向けた取り組みを行っている。	重度化した場合の指針と、終末期ケアのマニュアルが作成され、利用者や家族には、契約時に説明し同意をもらっている。法人主催の研修やグループホーム連絡会での看取り研修に参加している。現在、医療との連携や職員の対応で看取りに近い段階のケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡先やご本人の症状、薬の内容を作成し(カードックス)、緊急時に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内に水や電気を備蓄するシステムがある。年に数回消防訓練や災害訓練を行い、非常時に備えている。	昼間を想定した自主消防訓練や災害訓練は年3回行われているが、夜間想定訓練は確認できない。災害時の停電に備えて、太陽光発電システムを取り入れ非常用電源として使用し、防災面からIH調理器を設置している。水やお米、レトルト食品、缶詰等、7日分の備蓄がある。	事業所における災害対策として、昼夜想定避難訓練の実施が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務ミーティングやケース会議等で検討し、職員間で話し合っている。おむつや下着を見えるところに置かない等、プライバシーに配慮している。また利用者様にはわかりやすく丁寧な説明を行っている。	利用者には、笑顔で落ち着いた声で対応するよう心がけている。パット類は人目につかない場所に収納している。利用者の書類は書庫に保管している。職員の資質向上を図る為、採用時は6か月以内研修し、継続研修としてプライバシー保護等の勉強会を計画的に実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や外出を利用者様の意向に沿って行うよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間を基本的に決めているが、その日の体調や利用者様のペースに合わせて時間の調整を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪切り、整容、髭剃り等の支援。理容室との連携や美容介護の取り入れ		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	五感で感じる食事の提供を心がけている。台所で利用者様と一緒に食事を作ったり、香りで食欲をそそるような支援や見ておいしそう盛り付けの日々研究している。	食堂から調理の音や匂いがあり食欲が感じられる。週3日の調理専任職員を中心に3食調理している。毎年食事アンケートを実施し献立に反映するとともに、肉や魚を多く取り入れた調理を提供している。利用者は食器洗いや食器拭き等に参加している。管理者は、利用者と同じ食事を一緒に摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事介助、声掛けや数回に分けての提供するなど食事支援、また配膳の工夫でおいしく楽しい食事ができるような環境づくりを行っている。また嚥下の状態を確認しながら、誤嚥がないように見守りしている。		

沖縄県(グループホーム サンサン丸)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの実施。訪問歯科との連携を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録の実施、声かけや時間誘導で排尿をコントロールしている。排泄記録は主治医に報告し、連携して日々のケアにつなげている。	利用者の多くが日中はトイレ排泄をしている。利用者毎にモニタリングを行い排泄パターンを把握し、本人に合わせた支援の結果、リハビリパンツから布パンツに改善し、夜間帯も布パンツで過ごせるようになった利用者もいる。失敗時もさりげない支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質、イモ類のバランスのとれた食事やおやつを提供、またヨーグルトなどの乳製品を取り入れることで便秘の予防を行っている。また利用者様に応じた食事の形態(アチビー、きざみ、ペースト)を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	好きな時に入浴することができる。基本的には週に3回だが、毎日入る方もおり、自由な入浴となっている。	入浴は週3回としているが毎日入浴する利用者もいる。入浴を嫌がる利用者については、その理由を見極める支援や工夫を検討している。職員の提案で、足湯して足先を温めつつ、シャワー浴を行う等の方法も取り入れている。入浴剤は個人の好みで使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠の利用者様は、睡眠記録を作成し、医師と連携を図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬箱を作り、飲み忘れがないように服薬管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボランティアに参加したり、散歩したり、たまには演劇鑑賞や祭りへの参加等、楽しみのある生活を送れるように支援している。		

沖縄県(グループホーム サンサン丸)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望により外出支援を行っている。またご家族との関係性が途切れないよう、ご家族との外出支援も行っている。	利用者は天気の良い日は毎日、事業所周辺や公園を散歩している。散歩時は、利用者の体調に配慮し、車椅子を交互に利用しながら支援している。個別には、ドライブがてらスーパーで買い物を行う利用者もいる。遠足等の行事は、家族と一緒にバーベキューパーティーが好評である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	好きな時にご家族と電話を楽しむことができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の好きなものお部屋に持ち込みリラックスできる環境づくりに努めている。折り紙、家族写真、鏡台など好きなところに好きなものが置いてある。	共用空間は適切な明るさで、エアコンと加湿器で温・湿度が管理され、清掃も行き届いている。玄関先にはソファが置かれ、利用者が一人になれる場となっている。居間の飾りつけは、シンプルで落ち着いた雰囲気の中、吊り下げ飾りがクリスマスの季節を感じさせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間でトランプやカラオケ、風船バレー等を楽しむことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	左側が不自由な方へベッドの場所の移動した。寝具は各自好きな物を使用している。(ゴザ、毛布等)	居室は、タンス、二重防災カーテン、ベッド、エアコン等が常備され、利用者は、家族写真、馴染みの寝具類、三面鏡、テレビ、ラジオ等を持ち込んでいる。入居時に利用者と職員と一緒に折り紙等で制作した名札を各居室ドアに飾っている。利用者等の希望で置間も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使いじりがある方をトイレの前にお部屋を交換し、トイレの場所をわかるように常に電気をつけ、ドアを開けることで、使いじりがなくなった。 部屋の入口に名前をつける事で、自分の部屋を間違えなくなった。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム サンサン丸

作成日 : 平成 29 年 2 月 10 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策のついて事前に地域住民・近隣施設への協力依頼を行うなどの体制や工夫が望まれる。	地域住民や近隣施設への交流を図り、災害時に地域住民等の協力が得られるように工夫する。	①当事業所の地域交流室を活用してサークルを開催し、地域住民の方と交流を図る。 ②祭りや地域の行事に参加し地域との交流を図る	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。